

第9回電子光技術シンポジウム

機能性材料の設計と実証

－ 電子・光デバイスのイノベーション開拓に向けて －



2019年12月20日、秋葉原UDXカンファレンスにおいて、産業技術総合研究所（産総研）主催、当協会共催により、第9回電子光技術シンポジウム「機能性材料の設計と実証－電子・光デバイスのイノベーション開拓に向けて－」が開催された。当日は、産業界並びに関係研究機関等から157名の参加があり、会場がほぼ満席となるなど、この分野に対する関心の高さが感じられた。

午前には、計算科学による材料開発に関する講演として「計算物質科学の立場から新物質開発について」（東京大学大学院 理学系研究科 教授 常行真司氏）、「マテリアルズ・インフォマティクスによる高性能磁石の開発」（産総研 機能材料コンピューショナルデザイン研究センター 三宅隆氏）、「磁性元素を含まない磁性体の理論設計」（産総研 電子光技術研究部門 長谷泉氏）の3件の講演が行われた。

午後の前半は、酸化物に関する講演として「新しい光電子機能性酸化物」（東北大学多元物質科学研究所 教授 小俣孝久氏）、「新しいp型透明酸化物」（産総研 電子光技術研究部門 菊地直人氏）、「強相関電子材料」（産総研 電子光技術研究部門 渋谷圭介氏）、また有機材料に関する講演として「有機強誘電体の開発」（産総研 電子光技術研究部門 堀内佐智雄氏）、「光で操る有機材料」（産総研 電子光技術研究部門 則包恭央氏）の計5件の講演が行われた。

午後の後半は、超伝導物質に関する講演として「マテリアルズ・インフォマティクスによる新超伝導体開発」（物質・材料研究機構 ナノフロンティア超伝導材料グループ 高野義彦氏）、「固体化学的アプローチによる機能性複合アニオン化合物の開発」（産総研 電子光技術研究部門 荻野拓氏）、「コンビナトリアルケミストリーを活用した新奇超伝導体の開発」（産総研 電子光技術研究部門 伊豫彰氏）の3件の講演が行われた。

各講演の終了後には多くの参加者と有意義な議論が展開され、大盛況のうちにシンポジウムは閉幕した。